



解剖

第9回 ROBO-ONE 「マジンガア」

光子力研九所 (<http://www.majingaa.com/>)

「そーらにそびえるー くるがねのしろー スーパーロボット マジンガーゼッター」と、昔懐かしいアニメ「マジンガーZ」のテーマソングとともに、そのロボットはリング上に登場した。一見したところは、アニメに出てくるロボット「マジンガーZ」そのもの。それを操る操縦者も、アニメの主人公「兜甲児」のコスチュームに身を包み、その気になって登場。アニメの一場面が現実となった瞬間である。ロボットが歩けば、そのタイミングに合わせて「ガシーン、ガシーン」と重量感のある足音が会場に響く。兜甲児の「ロケットパンチ！」の叫び声と同時に、ロボットの青い拳からパンチ攻撃が繰り出される。アニメさながらである。

かと思いきや、アニメの動きとはかけ離れた、不自然な大開脚ポーズから始まる起き上がり動作をしたり、マントを翻したDr.ヘルや仮面をつけたあしゅら男爵などの仇役に扮した大の大人達が、周りをウロチョロしたり。さらには、ロボット操作に使用する無線をパワーアップするパラボラアンテナは、なんと台所で使うアルミ箔と紙皿で作った即席物であったりする。デモンストレーション用の敵役ロボには、全然別のアニメに出てくる「ザク」のおもちゃを使ったりと、とにかく目立つためにはなんでもあり。ROBO-ONE界で「イロモノ軍団」と呼ばれるようになる「光子力研九所」チームの、ROBO-ONE初参戦の一幕である。

その研九員達が、日夜寝る間も惜しんで、もちろん真剣に作ったロボットが「マジンガーZ」改め「マジンガア」なのである!! 時は2003年2月1日、第3回ROBO-ONE大会でのことであった。



写真1 大会前夜、宿でパフォーマンスの練習



写真2 第3回大会の様子 写真提供：森山和道



写真3 起き上がり動作 (対Adamant-3rd戦) 写真提供：森山和道

マジンガア優勝までの長い道のり

初参戦の第3回大会から悲願の本大会優勝を勝ち取るまでには、7回のチャレンジがありました。負けたときの帰路、真っ暗で長い高速道路の道のりはいつも、車中で反省会でした。敗因を検討・改良し、「今度こそ優勝しちゃうかも!」と意気揚々と次の大会に向かい、またしても無惨に叩きつぶされる。そんな繰り返ししが3年半続きました。

なかでも、特に思い出に残っている第6回大会の様子をお話します。

天国から地獄へ 第6回大会にて

この大会では、「マジンガーZ」の原作者・永井豪先生をゲストに迎えるという、我々には耳を疑うような信じ難い演出がありました。永井先生にマジンガアの勝つ姿を見てもらいたい、これはもう優勝するしかない、チーム全員闘志をみなぎらせていました。

永井先生は午後に来場されるとのこと。午前中の試合で負けようものなら、永井先生の前で試合ができなくなってしまいます。大会

関係者の方々からは無論、他チームの参加者の皆さんからも「絶対勝ってよー」と声援を受け、我々も勝つ気満々で試合に挑みました。

なのに、結果は..ほりさんの「Delta Fox」に、あっさり1回戦負け (ToT)。しかも、3ダウンとも「ファイナルデルタ」という技一手で取られてしまったのです! この技は、我々の脳裏にくっきりと刻み付けられる技となりました。どんな技かという、両拳を胸の前に構え、前方に倒れ込みながら両腕パンチし、そのまま相手にのしかかるという技でした (そうです、現在「ロケットパンチ」という名で呼ばれ、マジンガアの必殺中の必殺技となっている技です)

信じたくない試合結果に、我々は選手控え室でどん底の気分で果えていました。すると、なんと目の前に永井先生が現れたのです。我々はうれしくてうれしくて、試合のことなんて吹っ飛んで、少年の頃に戻ってしまいました。マジンガアだけでなく、兜甲児のヘルメットや、J-classに参戦している「マジンガア Jr」まで出してきた、サインをして下さいと永井先生に群がりました。先生は、快くすべてにサインしてくださいました。これらのサインは、我が研九所の闘志の源として、普段

は研九所内に厳重に保管されています。マジンガアだけは、胸の赤いプレストファイヤーの部分にサインをいただいたので、「勝負プレスト」と呼び、テレビ番組出演や取材時などに正装として装着しています (本誌の表紙撮影時も、もちろん正装バージョンです)

その後、ROBO-ONE委員会のご配慮により、午後の試合が始まる前に我がチームのデモンストレーションの時間を作っていただき、永井先生の前でマジンガアの勇姿を披露することができました。永井先生にも喜んでいただけたと、我々は感じました。優勝はできま